所　報

◇監事の再任

9月9日で任期満了となった当研究所徳永久次監事は9月10日付けをもって通商産業大臣から再任命された。

◇参与の辞任

当研究所参与大沢融は，農林事務次官を辞任したため，10月25日研究所参与を辞任した。

◇海外派遣員の出発および帰国　出発――昭和38年度海外派遣員として下記4名が10月中に任地に向け出発した。

氏名	研究課題	派遣地	出発日	派遣期間
新名政英	インドの経済開発における外国資本の役割	ニューデリー	10月7日	2年
桜井雅夫	経済発展と法制度 ――ブラジルを中心として――	リオデジャネイロ	10月15日	2年
安藤勝美	モロッコにおける法制度の変革 ――経済法を中心として――	ラバット	10月25日	2年
高橋彰	フィリピン，インド農村の社会経済構造 ――貧労働の形成を中心として――	マニラ，デリー	10月30日	2年

帰国――昭和36年度海外派遣員のうち，下記2名が2年間の任務を終了し，帰国した。

氏名	研究課題	派遣地	帰国日
岡崎正孝	イランの社会経済構造と近代化	テヘラン	10月2日
友杉孝	タイの社会経済構造 ――特に農業問題を基点として――	バンコック	10月5日

◇昭和38年度現地調査

本年度現地調査の第1陣の出発については本誌9月号に掲載したが，その後出発し，また出発予定のものは，つぎのとおり。

訪問国名	氏名	現職	調査目的	出発日および帰国日
メキシコ，コロンビア，ペルー，パラグァイ，アルゼンチン，アメリカ	阪田貞宜	当研究所図書資料部長	「ラテン・アメリカについての調査研究活動と資料事情」に関する現地調査	11月1日～12月23日
メキシコ，ベネズエラ，ブラジル，ウルグァイ，アルゼンチン，チリ，アメリカ	小坂允雄	当研究所図書資料部		
パキスタン，インド	加藤長雄		「パキスタンの工業化」に関する現地調査	未定
マラヤ・シンガポール，北ボルネオ，ブルネイ，サラワク，インドネシア，フィリピン	長井信一	当研究所調査研究部第2調査室長心得	「マレーシアの中央政治指導層と地方政治指導層」および「インドネシアの農村開発」に関する現地調査	未定

◇主な人事異動

主な人事異動が，つぎのとおり発令された。

休職　山下三郎

復職を命ずる

総務部参事を命ずる

昭和38年10月21日付け

図書資料部長　阪田貞宜

ラテン・アメリカについての調査研究活動と資料事情に関する現地調査のため，メキシコ他5カ国へ出張を命ずる。

理事　田島秀夫

図書資料部長阪田貞宜海外出張中図書資料部長事務取扱を命ずる。

図書資料部収集課長　中村弘光

図書資料部整理課長事務取扱阪田貞宜海外出張中図書資料部整理課長事務取扱を命ずる。

深　沢　八　郎

調査研究部専門調査員を命ずる。

以上昭和38年11月1日付け

◇出版案内（10月1日～11月15日発行のもの）

市川健二郎著『東南アジア農村社会の経済性向』（アジア経済研究シリーズ第47集），ア・ユ・シュピルト著，アジア・アフリカ研究所訳『アフリカの原料資源』（研究参考資料第50集），天城　勲編『インドの経済発展と教育投資』（研究参考資料第51集）

◇「アジア経済の長期展望計画」作業進渉状況（10月分）

〔調整委員会〕

1．委員会の開催

(1) 小委員会（委員長連絡会議）

FAO，ECAFEの共催による農産物長期予測専門家会議の経過および討論内容の報告がなされ，ついで総体予測委と各委および各委相互間の予測方法の調整を中心として今後のスケジュールを検討した。

〔総体予測委員会〕

1．委員会の開催

○今月は総体予測委員会は開催せず，委員長と事務局が中心となって今後の研究計画を検討した。

○貿易小委員会（10月2日）事務局作成の資料にもとづき域内貿易の推計について討議，あわせてエカフェの80年の貿易予測について討議。

2．事務局の作業状況

貿易マトリックスの作成（1960年および61年）

3．今後の予定

(1) 予測モデルの改善の研究

商品分析とマクロ予測の斉合性を相互に検証するために現在のモデルを部門別分析を可能ならしめる成長予測モデルに改善する方法について研究を進める。

(2) 中間報告の成長予測値の国別再検討

基礎データ，回帰方程式とくに輸入函数について国別に再検討を加える。

(3) 海外援助と経済成長を中心とする分析

先進諸国よりの経済援助額と経済成長との関連を計数的にとらえる。

4．貿易マトリックスの作成が修了したので逆行列表の作成を行なう。

〔農業委員会〕

1．委員会の開催

(1) 第26回委員会（10月11日）

油脂原料の生産予測について検討。

2．事務局の作業状況

(1) 引き続き需要予測値の整理および検討

(2) 油脂原料およびジュートの生産予測値計算

3．今後の予定

(1) ジュートおよび砂糖の予測値決定

(2) 需要予測の確定

〔工業委員会〕

1．委員会の開催

第12-1回　小委員会（10月3日）

中間報告における繊維消費予測結果の検討を行ない，今後の生産予測の方法を討議。

第12-2回　小委員会ーヒアリング（10月25日）

経企庁大戸計画官を招き，工業製品生産の予測方法について意見を聴取。とくに，セクターモデルとの関係について討議を行なった。

第12-3回　小委員会（10月28日）

機械需要予測のとりあげ方について森田委員と意見交換，作業計画を打ち合わせた。

第12-4回　小委員会（10月31日）

機械需要予測の進め方として，まず国連貿易統計と現地統計を用いて物量バランスを作成し，予測に必要な機種の選定を行なう。作業は事務局が中心となり，渡辺，森田両委員と共同で行なうことに決定。

2．事務局の作業状況

(1) 中間報告書内容の検討

(2) 各商品生産予測のための資料整備

〔資源委員会〕

1．委員会の開催

(1) 小委員会（9月30日），日本揮発油（株）と最終報告作成に関する打ち合わせ。

(2) 小委員会（10月3日），海外電力調査会と最終報告作成に関する打ち合わせ。

(3) 第11回委員会（10月4日），資源委員会の最終報告作成に関する打ち合わせ

「最終報告作成に関する計画」を付議。

下記の分担により，原案通り，おそくとも来年1月央までに，できれば年内に作業ならびに原稿執筆を終了することを決定。

① スズ，銅……三井金属鉱業(株)海外室

② ボーキサイト..住友商事(株)東京非鉄金属部

③ 原油……石油鉱業連盟

④ 電力……海外電力調査会

⑤ 石油製品……日本揮発油(株)総務部開発課

⑥ 鉄鉱石……八幡製鉄(株)資源調査室

2．事務局の作業状況

(1) ECAFE資料 *Projections of Foreign Trade of the ECAFE Region up to 1980* についてその概要を各委員に紹介し，あわせて資源委員会の中間報告の結果との比較検討を行なった。

(2) 資源委員会と貿易小委員会の各中間報告の結果について比較検討を開始し，林委員が八幡製鉄(株)，三井金属鉱業(株)，石油鉱業連盟などの各委員を歴訪して，それぞれの調整方法について協議を行なった。この結果11月中には貿易小委員会との調整を一応終了する見通しである。

◇動向分析室の出版物

クロノロジー No. 2.『韓国朴政権の5カ月』，No. 4.『アジアの動き』